

事務事業評価

平成 23 年度

担当グループ 物産流通グループ

基本事項	事務事業名	物産流通対策本部事業				整理番号	1601		
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	○あり ◎なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第6章 地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する	予算科目	7 款 1 項 4 目	◎継続 ○新規			
		節	第1節 地域ブランドの確立	事業区分	助成・育成				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	「島原ブランド」を確立し、農産物、水産物を都市部や中国富裕層に対して積極的にPRし、地場産品の販路を拡大するとともに、規格外品等を加工して高い値で売れる加工品を作る産業を育てるため物産流通対策本部が設置された。					計画期間	始期 平成 21 年から 終期 平成 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	市内事業所を対象に、力強い農林水産業の確立を図り、島原ブランドの育成と販路の拡大を推し進める。							
	目的達成のための手段・方法	特産品を紹介するホームページやパンフレットを活用し、全国各地で開催される物産展へ参加・支援するとともに、商談会を活用するなどして販路拡大を行い、地場産品のブランド化に努める。							
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	21 年度	22 年度	23 年度		
		①市が支援する商談会や物産展等における販売額の合計で2,500万円を目指す。		目標	千円	10,000	20,000	25,000	
		※長崎県等と連携するなどして、商談会を3回実施。(平成23年12月末現在。) のべ5事業所の参加があり、うち1事業所が夢彩都(長崎市)等と商談が成立。		実績	千円	10,555	19,100	14,590	
				達成率	%	105.6	95.5	58.4	
②島原市特産品紹介ホームページ及びパンフレットを作成し、本市特産品のPR及び販路拡大等に努める。		目標	件	30	40	50			
※市広報、新聞、事業所訪問等により掲載事業所の募集を実施。		実績	件	32	41	40			
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①全国各地での物産展・イベント等の開催		目標	回	-	-	20		
			実績	回	12	21	18		
	②商談会の開催・支援		目標	回	-	-	4		
			実績	回	4	3	0		
事業費等の推移	年度		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画	
	①直接事業費(千円)		0	0	13,205	20,091	24,199	20,862	
	財源内訳	国 県 支 出 金	0	0	0	0	0	0	
		地 方 債	0	0	0	0	0	0	
		そ の 他	0	0	0	0	0	0	
		一 般 財 源	0	0	13,205	20,091	24,199	20,862	
	②従事職員給与費 b1×b2		0	0	26,499	22,938	18,452	18,556	
	従事職員数(人) b1	職員平均人件費 b2	0.00	0.00	3.70	3.20	2.55	2.55	
			7,179	7,153	7,162	7,168	7,236	7,277	
事業費合計 ① + ②		0	0	39,704	43,029	42,651	39,418		

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 住民ニーズについては不明な点があるが、業所側からのニーズは高まっている面が多く、必要性は薄れていないと思われる。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 他市事例のように物産振興協会等があれば物産展や商談会の開催、PR活動等については実施が可能と思われる。	B
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切ではない 基本的には市内の事業所を対象に事業を推進しており、販路拡大等に意欲のある事業所を公募してパンフレット等も作成している。	A
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 事業推進により、販路拡大につながった事例もあることから、一部は達成しているものと思われる。	B
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 催事が多く、販路拡大面では成果は出ていると思われるが、ブランド化に向けての作業が進んでいないため、一部内容を見直す必要があると思われる。	B
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 各方面からの要請もあり、例年催事への参加が増加しているため、コストの削減については難しい面があると思われる。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 効率的な事業推進のため、商工面及び観光面との連携を強化する必要があると思われる。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 効率的な事業推進のため、商工面及び観光面との連携を強化する必要があると思われる。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 基本的には市内の事業所を対象に事業を推進しており、販路拡大等に意欲のある事業所を公募してパンフレット等も作成している。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均			2.50
			A=3、B=2、C=1、D=0として換算

◎総合評価			
評価結果	<input type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input checked="" type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	催事出展にあたっては、過去の出展経験等を踏まえて費用対効果があるかどうかを見極めて出展する必要があると思われる。 また、観光面等との連携を図るなど、効率的な催事出展に努めていく必要があると思われる。
	今後の課題及び改善策、見直しの状況 (実施上の課題等) 催事出展に対する補助金制度はあるものの、長期間の催事や遠方での催事については出展事業所が少ない場合が多く、催事開催に苦慮している。		
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。			

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	ブランド化に向けた取組みの見直し等の検討も必要ではないか。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 3,337 (千円)